

被爆した路面電車

1945 年 8 月 6 日、広島に原爆が投下された時、市の 123 台の路面電車のうち 108 台は破壊されました。残った車輛のうちの何台かは、たった 3 日後にはまた走行をはじめました。この事は地元住民にとっても広電にとっても大きな誇りです。原爆で損傷した車輛のうち 2 台は今でも使用されています。651 形と 652 形で、第二次世界大戦中の 1942 年に作られたものです。

戦争の遺産となったこの 2 台の路面電車は、当時は広島では一番大きく新しい車輛で、車体はより長くより大勢の乗客を載せることができ、床はゆるやかなスロープになっていて通勤客を素早く載せることができるものでした。2 台の路面電車は、原爆が落とされた朝の時間帯に走行していて、651 形は爆心地からほんの 1km のところにいました。木でできた内装は燃えてしまいましたが、無垢の鋼鉄製の車体だったためか、車輛は完全な状態で残りました。戦後、両車輛とも修復されて運行に戻されました。

以来、2 台の車輛は、非接触トラベルカードに対応したり、エアコンが付いたりといったアップグレードはされてきましたが、シャシーはオリジナルのままです。運転席には新しいテクノロジーは全く追加されておらず、路面電車は今も全面的に手動で制御されていて、ボタンやスクリーンではなくホイールとレバーで運転されています。これらの路面電車に乗るのは、まるで昔に戻る時間旅行のようです。実際に広電は、広島歴史を保存するために、少なくとも 2 台のうち 1 台は可能な限り走らせていくことをポリシーとしています。

残念ながら、651 形と 652 形はその古さのため、常に利用できる状況ではありません。しかし、広島のもっと新しい路面電車は、すべての乗客に対応できるようにデザインされています。